

Fontaine

vol. 41

発行日 2013年10月25日
発行/岸和田文化事業協会〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

重森三玲と 岸和田城庭園の思い出

日本舞踊家(重森三玲長女) 重森 ゆうごう 由郷

亡き父の重森三玲^{みれい}は昭和を代表する作庭家、庭園史研究者です。国内には父が設計した庭が今も100カ所以上残っています。大阪府内にも数カ所の庭がありますが、岸和田城庭園「八陣の庭」は父の代表作です。創作意欲が旺盛であった父は、いつか空中からも見ることが出来る庭園を設計してみたいと考えていました。そこへ、岸和田城に庭を造る計画が舞い込んできたのです。昭和28年、当時は福本市長の時代でした。

芸術家として庭を創作していた父は生前「僕は金もいらぬ、地位や名誉もいらぬ」と言っていました。「本来無一物」という禅語を私に教えてくれましたが、若い頃にはその意味がよく分かりませんでした。私が「お父さんは何が一番欲しいの、何を願っているの?」と聞くと、「僕は二百年も三百年も生きてみたい、何故なら長寿であれば未来永劫に残るような名作を創れるから」と父は言っていました。

代表作となるような庭を完成するたびに、「今度こそ日本一の出来、いや世界一かな?」と繰り返し、高揚感をあらわしていた父三玲。私は、父が自分の作品にそれほど自信があり、自負できることを羨ましく思いました。

岸和田城の庭の完成後、翌年には本丸が再建されました。そして、昭和30年に庭園の空間を利用して野外いけばな展や舞踊の会が催されました。父が主宰する前衛いけばなグループ・白東社の野外いけばな展が日中に開催され、夜

は、舞踊家であり、まだ20代の娘であった私が直線と曲線の踊りというテーマで舞踊を発表しました。

当日の夜は、八陣の庭にかがり火を灯し、かがり火の炎の中で理性と感情の葛藤、女の情念、業といったものを能形式の舞踊で表現しました。岸和田城の天守閣から葵の上のふん装で鬼女の面、銀の鱗上着、緋の長袴のいでたちで現れ、城の石段を一段ずつ下りながら舞が始まり、音楽は日本の太鼓、鼓、笛、インドの打楽器と野鳥(うぐいす、仏法僧)やヒグラシの声を録音で合わせ、その伴奏で舞が繰り広げられました。若かった私には重責でしたが、岸和田城を舞台にした野外ページェントは成功し、プロデューサー的な立場でもあった父は大変喜んでくれました。今や約60年前の思い出です。

昔も今も岸和田城は町のシンボルです。しかし、1950年代当初の整備計画の前や、その後にも、景観を損なうような開発プランが出ては消えていったようです。幸い、文化が危機にさらされる度に立ち上がられた市民の方々のご尽力やご努力があり、時々行政の長の判断によって遺構が守られてきました。文化をつくるのも、破壊するのも同じ人間です。岸和田の城、城郭、堀、庭園等々、この様な貴重な文化財をきちんと保存、継承していけば、人々は今後も何かと熟慮をくりかえし、また新たな文化を創り出すことが出来るのだと思います。



土屋 弘氏

鳳洲・土屋 弘と 女子の義務教育(上)

天保12年(1841)、岸和田藩士楽遊の長男として生まれた土屋弘(号が鳳洲)は、藩校講習館の教授を勤め、後の藩主岡部長なが職を教え、尊王攘夷派として藩政にも寄与しました。

漢詩人・書家としても名があり、維新後は堺県(大阪南部と奈良県)の教育官僚として、義務教育の普及、そのための教員学校の設立・整備、教科書・啓蒙書の執筆・編纂・教員指導などに力を尽くす一方、不便な奈良山間の小学校にも視察で足を運び、白川小學(奈良県下北山村)では、生徒の少ない理由が、村が広く不便で通学しにくいからだと聞くと、即座に支校(分校)の開設を命じて実現するなど、義務教育の普及に取り組みましたが、その際、女子の義務教育普及に非常に熱心であったことはほとんど知られていません。奈良山間部の学校の女子生徒の数を気にとめ、数が少ない

地区では、区長・戸長・父兄を集めて、「懇ろに」女生徒の就学を諭し、目にとまった優秀な女生徒の名前を記してもいます。

土屋が女子教育に熱心なことは漢学者仲間内でも知られていて、坂谷朗盧さかたにろうろ(明六社同人で、国際共通語のエスペラントを日本に紹介した人)は、「願女学生不做欧米女子得意弄女権」、(教育を受けた)女学生が欧米のように女権を主張しすぎないように願うと、土屋の熱心さを揶揄しています。(「巡学日記・続巡学日記」)

土屋が女子教育を重視した理由はなんだったのでしょうか。かれは、欧米が日本に比べて繁栄している理由の一つが、女子教育の普及にあると考えました。妻が家を守り、夫が十分働けるようにすれば家は栄える。家が繁栄すると、家の集合である国が繁栄すると考え、妻となる女性には、家を守るように家政・育児などの教育が必要であり、義務教育では、そうした実学的な教育を女性に受けさせるべきだ、と考えていました。(「論興女學之急務」)

かれの考えを古いと批判することは簡単ですが、女子の義務教育にすらそれほど肯定的でなかった明治10年(1877)頃の社会で、山間部にまで入って女子の義務教育の実現に力を尽くした行動力は、評価すべきことでしょう。

女子教育について先進的とはいかぬ考え方の持ち主であったものの、土屋のような人の努力があって義務教育が女子にも徐々に浸透したからこそ、後年いろいろな分野で活躍する女性たちが出て来たといえるのではないのでしょうか。

相川「ほたるまつり」
“ほたるの里 相川”を支える

今やすっかり定着し有名になっている、相川の「ほたるまつり」。

それを支えておられる相川町会長の辻 周二氏、
「相川ほたと自然を守る会」委員長・上出健吾氏、
同実行委員・西出敏啓氏をお訪ねし、今までの
努力の足跡や現状・将来などについてお話を伺い
ました。



右から西出さん、辻さん、上出さん

一度限りのイベントの予定が…

昭和63年…岸和田城400年祭のイベントの一つとして「ほたるまつり」が、市と地元の協力のもと開催されました。その時、市の呼びかけを受け、担い手として、地域の4Hクラブ、農業研究クラブの若手、それに相川町会、壮年団の参加で「相川ほたと自然を守る会」が旗揚げされました。「ほたるまつり」の好評に応え、以来、ほたるの生息条件や自然環境の改善、鑑賞のための条件整備を行い、このイベントを継続して来しました。

ほたるをよみがえらせよう！

従来たくさんいたほたるが、昭和末期には津田川上流に位置する相川でも本当に少なくなっていました。町会や婦人会、子ども会等がともにほたるの保護に乗り出しました。

農薬の使用を控えたり、各家庭のゴミを流さない、合成洗剤を使わないなど、みんなで美しい川を守りほたるの住める環境を作る努力を続けました。

また平成13年6月に集落排水設備が供用開始され、水質の浄化が一層進みました。現在では、ほたるの成虫や、幼虫、幼虫の餌になるカワナナ（巻貝）などが、十分に生育するまでに回復しました。

更に当初は、田の畦に仮設遊歩道を設置していましたが、平成16年度には立派な遊歩道が完成し、観客は一層楽に安全にほたるを鑑賞できるようになりました。

今や有名になりすぎて…

沢山の努力を重ねて続けてきた「ほたるまつり」は、すっかり有名になり、「ほたるまつり」当日は

3,000人が訪れます。しかしほたるのシーズンは1ヶ月間あり、その間は毎夜1,500人ほどの鑑賞客が訪れるそうです。そのため、外来者の目には見えない苦労・努力をしてくださっています。

相川町は、現在35世帯の小さな集落です。その数少ない方たちで、年間を通じて草刈りや遊歩道の清掃など行っています。シーズン中は、市の補助金もあり、交通整理のために夜10時までガードマンを置き安全を図っていますが、それでも観客にトラブルのないよう気が抜けなといいます。

地形的に駐車場設置は無理、また他所へ抜けられない狭い道路が1本のみという条件の悪さや、ほたるの活動時間帯の午後8時から9時を超えて遅い時間帯にも見に来られるなど沢山の困難がありますが、相川の町の規模を上回る来客数に、嬉しい悲鳴を上げつつ頑張っているのが現状です。

でも「観客のためには美しい緑の田が無ければと思うと田植えも頑張れます」と、外来者の目の貴重さも強調されています。

地球規模の課題…ここでも

最近では地球温暖化の影響か、ほたるのシーズンが6月下旬頃であったのが早まっているそうです。

私達は相川の事情を良く理解して、貴重な緑と人情溢れる隠れ里に、「お邪魔します。お世話有難うございます。」の気持ちで楽しませていただき、みんなで長くほたるの里を守っていききたいものです。

(取材・文 小島栄子・本郷元子)

歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

第12回 「土生滝意賀美神社から河合町毘沙門堂まで」



※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、
散策することをおすすめします。

①意賀美(オガミ)神社

宮の台バス停すぐ。
高麗タカオガミ(閻羅クラオガミ)
くらは水を司る神。古来、祈雨・止雨の神として尊崇される。
貴船神社の御祭神。
雨降り大明神とも呼ぶ。社伝には陽成天皇の元慶八年(884年)の大旱魃に菅原道真を奉幣使として雨を祈られたと。また一説には天平四年(732年)聖武天皇がこの宮に参拝され降雨を祈願されたとう。その証拠は現存する。水盤にあると云うが疑わしい。

②諸井堰

意賀美神社から塔原線を約500m先、三角工業付近。
双井堰とも書く。岸和田の西半分の水利を支配する。津田川(かつらぎ川)の右岸、左岸の双方に分水するので、そう呼ばれたと。また、久米田寺の寺領が土生郷に多くあったので、天平の昔、井手の左大臣橘諸兄がこの堰を設けたとの伝承もある「諸兄堰」。岸和田城の濠の水もここから岸和田池を経て送られていた。

③船渡

諸井堰から船渡バス停まで約1200m。
字の通り読めば、ここで渡船があったように思われるが、この辺りの津田川は舟で渡る程の川幅はない。語源は分岐点を「クナド」と言ったところからクナドがフナトに転訛したものと思われる。この地点から木積・塔原・内畑へと道は分かれるし、川は白原峠・本流・鍋山辺りからと集まって来る。逆にいうと川も分かれて行く。そういう意味から「クナド」はうなずけるところである。

④長徳寺と東葛城神社

神佛混淆の時代の姿を残している。
長徳寺は浄土宗の寺院で、塔原・相川・河合と浄土宗である。
東葛城神社は大正二年に東葛城村内の村社を廃止して、河合の菅原神社に合祀し社名も改称したものである。

⑦百観音



⑨毘沙門堂



岸和田の市街地から以外に近い意賀美神社。境内より下ると滝があり、周囲は深山幽谷の趣につつまれています。

次に河合へ向かいます。神於山のふもとのほんの狭いエリアに、たくさん見所がありますのでご紹介します。

理事

藤田保平・小島栄子・本郷元子

⑤高野山への道標

旧街道の木積への分岐点にあり、女人高野堂へ九里三十五丁の文字が読める。ここでも塔原街道は、葛城越えて紀州へ通じていたことが証明される。

⑥横山街道

旧国道170号線である。泉佐野から熊取・水間・河合。白原峠を越えて内畑・和泉市の横山へ通じる瀑布線上の旧街道でもあった。

⑦百観音

「モモの観音」ともいう。百体の観音像をお祀りしてある岸和田では珍しいお堂である。西国三十三所・坂東三十三所・秩父三十四所、合計百所の観音さん。石碑があり、ご詠歌が刻まれている。

⑧大岩跡と九頭神跡

百観音から約700m。旧街道が新道と出会う少し手前に道に覆いかぶさるような岩山があったが、今はその岩山も砕かれ、住宅になっている。九頭神のクズはクスレルの語源で、津田川の氾濫から守ってもらう為にここに社を祀ったものと思われるが、東葛城神社に合祀され、字名のみ残った。

⑨毘沙門天堂

旧街道からは、九頭神を距てた岸城塔原線沿いにある。毘沙門天は七福神の一人であるが、弁財天と共にインドのヒンズーの神である。毘沙門天をお祀りして有名なのは信貴山。また、上杉謙信は一生を毘沙門天に帰依したことも知られている。

スタート地点は国道170号線の土生滝交差点、塔原線を河合方面へ。
すぐに宮の台バス停があり、その前の坂を下りて行くと意賀美神社の社殿が出ていきます。社殿には2つの鳥居が立っています。左手の鳥居をくぐっていくと滝があります。とても幻想的ですので、是非寄ってみてはいかがでしょうか。宮の台バス停から500m先に諸井堰があります。少しわかりにくいですが、三角工業付近、反対側の小道から堰まで下りて行けます。船渡バス停までは山道です。ここまでくると住宅街になります。
長徳寺と東葛城神社は同じ敷地内にあります。目印は幼稚園と小学校です。横山街道に向かって歩いていくと道標があります。近くに津田川が流れていて、河合中央橋という小さい橋が架かっています。横山街道を渡って、百観音へ。住宅街の坂が上がっていきます。すると石碑があります。石碑には「無始よりの罪もきゆるんこのおくにまいるておがめ ももの観音」と刻まれてあり、その奥のお堂に百の観音が祀られています。
ゴールの毘沙門堂は河合バス停近くの小高い丘の上、木立の中です。
距離は少しありますが、目的の史跡だけではなく、秋のすばらしい景色も堪能していただけたらと思います。

岸和田 あ・ら・か・る・と

広報部会 和田 正則

岸和田のみかん



2013年9月29日撮影

岸和田で多く生産されているのは鹿児島県で生まれた「温州みかん」という種類のみかんです。海外では圧倒的にオレンジが多いのですが、私が以前駐在員をしていたロンドンにあるほとんどのスーパーでは、近年「Satsuma」「Mikan」などの名称で販売されていました。

近畿農政局の資料「大阪の果樹」によると、昭和45年の生産量58,800トンピークに平成22年には17,000トンにまで減少しています。そういえば岸和田も玉ねぎ小屋のみかんを貯蔵する小屋はすっかり見かけなくなりました。

岸和田での問題は、水田に適さない山の斜面を利用して栽培されることが多く、大変きつい仕事です。その割に価格が安いということで、後継者となる若者が敬遠し、残された年輩の方が継続している現状です。結果としてスーパーでは愛媛や有田のみかん箱で占められようになりました。

岸和田のみかんの生産はまだ続いています。この秋、是非岸和田のみかんをお試し下さい。岸和田で生産されたみかんは甘く、程良い酸味があると言われてしています。

古い伝統と新しい創造力が一体となった街 金沢等見聞記



岸和田文化事業協会 専務理事 真下 豊光



石川県立音楽堂にて

7月8日（月）・9日（火）の両日にわたり、岸和田文化事業協会初めての試みとして、一泊二日の創造都市視察を行いました。行き先は、石川県小松市の市立錦窯展示館、金沢市内にある県立音楽堂と21世紀美術館です。

古都金沢は、従前から北陸の小京都、あるいは歴史的観光都市と言われていましたが、21世紀美術館や金沢市民芸術村の設置など古き良き文化を大切にす金沢から、文化を創造していく都市へと変貌を遂げているという情報を得たからでした。従来から「文化で飯が食えるかい」と言われている中で、文化芸術を中心に据えて経済の活性化やまちづくりを行うというのはどういうことなのか、この目で見てみたいという考えからでした。

8日の朝、観光バスに乗って岸和田を出発し、小松市を目指しました。最初に訪れた錦窯展示館では、四代 徳田八十吉氏ご自身にお出迎えいただき、展示館の説明をしていただきました。この建物は、昭和初期に建てられた人間国宝・三代 徳田八十吉氏

の生家であり、初代から三代にわたり九谷焼の工房、そして生活の場として使われていた古民家を改修したものでした。錦窯や九谷焼をより多くの人に知ってもらえるようにと三代 八十吉氏が小松市に寄贈し、平成11年に開館したということです。

また、施設から車で20～30分離れている現在の徳田八十吉氏ご自身の陶房へも案内していただき、作業場や作品もじっくり見せていただきました。四代 徳田八十吉氏の気さくな人柄に触れ、参加者一同感動と充実した時を過ごすことができました。

二日目は、午前中に石川県立音楽堂を訪問しました。この音楽堂は、コンサートホール、邦楽ホール、交流ホールで構成されています。コンサートホールは、荘厳な響きをもたらすドイツ製のパイプオルガンを備えるとともに、日本を代表する指揮者故岩城宏之氏の協力を得て設立した「オーケストラ・アンサンブル金沢」の本拠地になっています。主にクラシック演奏を目的とする1,560席の座席数を有するホールです。邦楽ホールは、邦楽の発表鑑賞の

場であるとともに、歌舞伎や文楽、能などの公演を行っています。回り舞台、迫り、可動式花道など豊富な専用機能を装備しており、客席数は、花道使用時で691席です。交流ホールは、展示会のほか、社交ダンスや講演会など様々なイベントが催せるホールです。多彩なステージレイアウトを可能にする装置が設置されているそうです。また、ホールロビーには、輪島塗のテーブルが配置されるなど、県内の特産品を取り入れる工夫も随所に見えました。

この音楽堂では、三国館長さん自らが館内を案内してくださいました。コンサートホールでは、本番を次の日に控えた「オーケストラ・アンサンブル金沢」がリハーサル中にも関わらず、ホール内に入らせていただき素晴らしい演奏を聴かせていただきました。そして、指揮者の方が、演奏の合間を使って楽団員の方々に、『今、客席に岸和田文化事業協会の方が視察に来られています。』とご紹介をいただき、団員の方々に拍手で歓迎の意を表していただきました。次に、邦楽ホールでは舞台上上げていただき、回り舞台を実際に回してもらって体験させていただいたり、迫りの上に乗って上げ下げをしてもらったりしました。奈落はすごく広く、安全性を考慮した仕組みになっていました。それぞれが、滅多に経験の出来ないような体験を館のご配慮によりさせていただきました。

館長さんの説明の中で、特に印象に残ったのは、「音楽堂は、JR金沢駅東口に位置しており、ホールの稼働率は非常に高く、催しの入場者も能登半島や福井県、富山県等から来られています。どこからで

もJRの路線一つで来ることができますし、帰りは、夜の公演でも終演後直ぐに電車に乗って帰れます。」という言葉でした。建設時は、一等地に建てる施設として音楽ホールが良いのかどうかという議論がかなり交わされたようです。

最後に、21世紀美術館を見学に行きました。この敷地には、かつて金沢大学教育学部附属小中学校がありました。移転することになり、それに伴う跡地をどう活用するかが課題になりました。近くには、石川県立美術館や兼六園、市役所がある地域でしたが、当時の市長が、市立の美術館を建てることと決断したそうです。当時、金沢市は中心部の昼間人口の激減が現実問題として迫っていましたが、中心部に人を呼び戻すために企業なり商業施設なりを誘致するという発想はせず、中心市街地の活性化と文化創造という二つの目的を設定し、美術館を核とする文化施設の構想を選択しました。また、この美術館は、ベネチアビエンナーレ第9回国際建築展において金獅子賞を受賞し、建物自体も注目を集めています。

この二日間の視察を通して感じたことは、金沢は、文化は消費するものという考えが一方である中で、文化的資産を多いに活用して、地域経済の活性化を図り、多様な文化でまちづくりを実践してきたということです。元市長の山出氏は、その著書の中で、金沢を「単なる歴史的観光都市ではなく、様々な分野で伝統と現代が同居している多層都市である」と書かれています。練られて策定された構想のもと、着実に歩んできた歴史というものを肌で感じました。



石川県立音楽堂 舞台迫り見学の様子

岸和田文化事業協会の事業 Information

音楽世界旅 VOL.9 スペイン編

レクチャー・コンサート 情念の芸術 フラメンコ
悲哀と歓喜

「悲哀」と「歓喜」、その人間の奥深い情念を解き放すかのような息の合った妙技を目と耳で存分にお楽しみください。

日時:平成25年11月30日(土)午後3時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:お話:西岡 信雄

演奏:フラメンコ・ギター・スタジオ Castro Marin

諸岡 誠仁(代表/トケ)

山田 郁美(バイレ)・秋本 悠里(バイレ)・野崎 千恵(バイレ)

大住 昇平(トケ)・小平 祐也(カンテ/バルマ)

浜上 晃二(バルマ)・上山 鉄平(バルマ)

入場料:一般前売 2,500円

会員前売 2,000円(当日各300円増)

企画:大阪音楽大学音楽博物館

第38回自泉フレッシュコンサート ~名曲を訪ねて~

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた
新人演奏家等によるコンサート

日時:平成25年12月13日(金)午後6時半開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:一般前売 1,200円

会員前売 1,000円(当日各200円増)

出演者:大西 真衣(ピアノ)

門脇 詩磨(ピアノ)

山西 麻紀子(ピアノ)

新春 邦楽の夕べ

日時:平成26年1月17日(金)午後7時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:一般前売 2,500円(当日各300円増)

会員前売 2,000円

出演者:山村 若佐紀(お話)

菊央 雄司(唄、三絃、琴)

菊央 椰 ゆかり(琴、十七絃)

平山 泉心(尺八)

山村 若代紀(立方)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

第3回 自泉ジュニア コンサート

オーディションで選ばれた小学生~高校生によるコンサート

日時:平成26年2月23日(日)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:無料

出演者を募集します!

ピアノ・声楽・弦楽器・木管楽器演奏に限りです。

(複数名での演奏も可、ただしコーラス等は不可)

♪対象年齢 小学生~高校生

♪参加費 2,000円

♪出演の為にオーディションがあります!

コンサートで演奏する曲(3分~8分程度)をご用意ください。
オーディションでは、3分程度で演奏を中断していただくこと
になります。また、伴奏者が必要な方は各自ご用意ください。

♪オーディションの日程

平成26年2月1日(土)午後2時~

学年順により演奏。(演奏順は変更できません。)

♪申込方法

氏名・学年・住所・電話FAX番号・演奏曲目(作曲者名)・演奏時間・演奏楽器
名をお書きの上、11月30日(土)までに参加費を添えて自泉会館へお持
ちいただくか、下記の住所へ郵送でお申し込みください。郵送でお申し込み
の方は、参加費を下記までお振り込みください。

お申込みいただいた方には、12月25日(水)までにオーディションの案内を郵
送いたします。

郵便振込 口座番号 00970-9-28145

加入者名 岸和田文化事業協会(振込料は各自ご負担ください。)

♪申込み・問合わせ

岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化 情報

文化の日祝典記念事業

朗読&音楽「森は生きている」

日時:平成25年11月3日(日・祝)午前11時30分開演

会場:マドカホール(荒木町1丁目)

出演:加藤 くみ子(朗読) 角野 芳子(ソプラノ)

堺 靖師(チェロ) セルバンテス 塚 多恵(ピアノ)

入場料:無料(要整理券) 定員:300人

受付:10月5日(土)から申込先着順

申込方法:①往復はがきでお申込ください。

はがきに住所、氏名(返信はがきには宛名)、電話番号、
人数(2人まで)を記入し、マドカホール「文化の日祝典」係まで
②整理券をお求めください。

マドカホール・自泉会館で整理券を配付します。(1人2枚まで)

申込先・問合せ:マドカホール「文化の日祝典」係

〒596-0004 岸和田市荒木町1-17-1 TEL 072-443-3800 (月曜日休館日)

nouvelle Fontaine vol.41

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2013年10月25日

◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

和田正則・小島栄子・齒黒猛夫

藤田保平・本郷元子

編集後記...

とてつもなく強大な台風26号の被害を受けた伊豆大島の惨状は目を覆うばかり。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

「現在は異常気象の時代である」とは、災害研究者の指摘ですが、この状態を招いたのは他ならぬ私たち人間。際限なく自然に甘えて破壊を続け、楽と効率ばかりを追い求めた結果と言えるでしょう。自然に対し畏敬の念を持ち、自然界からのメッセージを真摯に受け止めたいものと感じています。

(本郷元子)

<http://www.2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索